

文化六年

之  
摘

809-2 (齊)

俳諧資料カード

年代	文政 <small>(大)</small>
編者 (筆者)	車太
書名	士格
備考	

(下垣内 註)



泉中阿賀北五丁目三十二番八号  
 下垣内和人  
 電話〇六三三二七九六五番  
 〒737

探題



とく起てん中。軒窓や梅乃也

七十八歳  
楚子

松梅よ玉のやうある朝日うき

階涼

美に阿くぬきと人梅は膝月か

観之

梅の花いろく人よ香とこれ

虎文

くせんえんや乃程程梅能客

文州

流々梅の香ありし朝霧り

雨夕

様う香と香と香と二ありし

僧  
云和

美といふ月のうちうけの梅乃む  
 東口  
 ふ梅やのりくも香よきとぬ  
 一桐  
 古氣と志きくりに様の花  
 此山  
 定ぬ気まのうら平梅乃香  
 後山  
 何くなく日露ふうめのお  
 林枝  
 梅の香の手紙推るるいさり  
 都曉

夕とくうらに柳の香くらより  
 少年  
 松人

人の心も水もあをき柳哉  
 其水  
 月も日暮きよ満るは甲の柳  
 路文  
 糸柳月のさめけふるり  
 東涼  
 表表形に照る柳哉  
 專呂  
 夕ゆり影詠河の柳か形  
 義石  
 一三波あききき柳の香  
 僧  
 柳の枝は只世の中乃伏家哉  
 五葉  
 とも柳枝日あかりて運ひ居  
 二洲

あふふふふふふふふ柳

酒斗

一つ花ふ柳の下乃小急のう

我扑

たふくとまふふふのたる柳

芦丈

花ふふの柳のふふふふふ

喇川

柳のふふの柳のふふふ

我々

森をけめふふふふふふ

泥ふ

あめつち乃ちふふふふ

素羽

妻の柳 善氣ふふふふ

花席

善柳や柳を透してふふ

可也

善子乃香ふふふふ山

賤仙

善草や柳もふふふふ

雲臺

善子乃香ふふふふ山

魚支

僧

善子乃香ふふふふ山

鬼佛

善子乃香ふふふふ山

如壳

常々心とすうを考ふ

北水

さかしくねる萩の松きし

斐路

来るやいふ子鳥の高き

五水

田の松は雀も鳴く

宇粒

漁村とて人もあやし

魯文

人息乃塔もくさる

伯守

雲中むとくし海うら

淇亭

何のふと忍ぶ人山の

友樹

とふとめてくさる松乃

七つ

堅乃松茂をねりはして

松雅

田の松は雀も鳴く

九臺

とふとめてくさる松乃

文枝

うらうらぬふとねり

几叟

とふとめてくさる松乃

梅溪

着るあやふきそと入るのう花結ひ

綾窓

てふくの着れはついでに暑きり

葉叩

花の蒼き房の里乃花乃産

由卜

安浪やいう船の里乃花乃産

樵亦

勝夜の橋や花の情ト

一瀑

名をいふ時けし月此橋をよ

桃里

橋月うさうひ多ふ四方のを

稻主

あつきの温あれもあつきの月

桑吏

勢とのまらたりや去乃月

且古

大宮よ唐のせよとや啼蛙

古木

ゆきかたに人よあそむる時蛙

叙丸

そよあそむる心あそむる蛙

少々

一歌う蛙よあそむる時蛙

二川

けつくと津のほろり啼蛙

李叟

共

よき柳よ今も我さかりし春の雨

文几

志すらくに淋くおの人も春の夜

紫江

春の乃言ゆこりねる目も我

桃戸

新柳や松好ひくき春乃る

野栗

旧海の音う減るあり春の雨

射山

柳とよやはわらふと届く春の音

露英

鶯乃柳の中くも春よ蝶

久禾

柳の羽よりうらみ海も乃光り哉

純鸞

春の厚をたのまきく休む柳も

小卓

日和そそ柳もと柳の戦さるり

鳥下

春と柳我柳くこけ花柳も

紫青

十日経り柳のえんも春の柳

鳳子

柳のさぬやみ こぼれと  
しづみの柳

月里

春風もさ吹やうぬ里ある

赤水

春の雲破くて返す猫のつま  
巴石  
春の雲は恨めしき鳥と猫乃恋  
波夕  
意猫やあふ山々の尾世鏡  
白龜

混雜

己う時寐く忘るる妻乃暗  
蕨春  
松の戸を心せり或遠す枕の志  
葛路  
茶風の暮れをくきく思ひ入り  
錦枝  
思ひ入り己う氣の溢れ入り  
一川

春の神和花散川の二つ三つ  
五六  
涼々や日の御邊と野の妻辺  
涼々  
春の代の妻の志入り苗代共  
文之  
苗代乃うへを静かなる通る  
野菜  
思ひ入れをりる雜乃さるる  
春羽  
山路を歩もある中一の雜の群  
せい  
もの香乃妻とさるる谷乃志  
梅宇  
るるや白く鳥乃る葉堂  
東鵲

陽をよみまのすゑのふりし山  
 暁出くもどたりしあまのり  
 雲中や只のなりぬまふん  
 蟻のまのま居も幸しよのぬ  
 長あまのま縁辺の夕暮へ  
 妻子あまの人もくはる取  
 正月や門の井筒も園原の塵  
 和歌や母乃をれし大立と管ふ

本成  
 斗山  
 十騎  
 歌松  
 古雄  
 左平  
 竹母  
 鬼兒

僧

廣くもけりもくはる取  
 雲巾撥違ふたり約かしら  
 次干しそ松を鳴と成りり  
 すま結しそ家知る竹の若くはれ  
 山吹と旅人よまそれけり  
 雲の影を理よたそく雪まふ  
 福んふれあまはけしちる椿

女  
 一層  
 屯  
 奇鹿  
 霞村  
 雲人  
 雲鴉  
 山居

蟻一生をされしは毎よりんあり  
 羊かどを堀中煙の一はうぬ  
 常々小松しらの月あか  
 梅のむ咲片まよひのほれり  
 淀舟よ人夢消て春の月  
 と狐狗よ有る様かゝ麻とむ  
 赤けよ山所と河りくやまの麻  
 初年や人あそびよまをさし

石叢  
 梅乳  
 蘭吹  
 茸谷  
 一抄  
 眉山  
 鹿古  
 柿丸

文通

今つ花の白さ花りてや雪のま  
 妻の娘とぬれそぬれやつら箱  
 法を和十何一年の梅りしと  
 常々よ只よをいやとのみそりも  
 うらしくと物かゝる梅のむ  
 捨鯉のうろかゝめとる春迎か  
 下鴨の別條しまをとるる乃雨  
 後の江や花ももんとる波

森て 玉宇  
 太田 鷺色  
 ツバメ 六賀  
 三階 五橋  
 七尾 其之  
 錦川 暮臘  
 玉史  
 黒嶋 玻井

輕めし或中雀よおふ中雀よ

ウカハ 之楓

露の巻と定てちまきく二日の月

ウニツ 碩茂

常新なるよふ角のありり

ハニラ 其明

華燈草世よ吹風よ吹きけり

石動 龜毛

あふ人乃かぜかありく柳

五雲

吹くくにきある松や藤月

佳夕

常の物なるよ山乃廣と

吾友

風さく小庭よ案る柳

司三

本あつこのなるあふりや鳴る雀

美起

露の巻其の心ありりよあり

以一

あの中しに梅をひけと露を

中川 友鴉

神よおきくをきとゆきぬ中雀

滑川 朴軒

あ心何なる常のなるる一那

福野 百尔

常の中なるを御のうらしみ

小林 丹々

あうりやせて目とくしたる梅

高丘 桃臺

あの日く春のひらくを山

トヤマ 成雅

常新なるも定る日ありり

魚心

行組や能よふぬとありり

如柏

柳植うそちを好むをえへりり

正平五 樂都見

屋敷入のむ久息ある蟹の那

宮腰 甫吟

夢の神や心の今歎えよらり

加世喜

山吹やんとして萩を通るま

松任 菊良

唱維多を新卒のふれと踏へり

塘芝

春の目録何支の人や新屋をけ

丸五 南水

新川や人の流ぬらちる中流

一七 友南

石とへらハ知念のしらと表辺を

ア三 丘高

終夜や猿途しる人よ建ふ

芳之

杉の葉新赤ひらちる柳を

十一六 柳赤

白梅乃下中てなくよ新朗

ヒシコ 尺艾

湯空やふりくく流は若

阿未改 木子朝

柳も好まふ若ぬ田舎式

長崎 篤老

をれくくの柳をまきく啼とあ

京 くら風

梅咲やる乃あしこの芝築地

百佳更 橘栄

若柳よ引はひてある小春式

宋也 芙九

ア野の指うささけり春の水

蒼虬

折片よ好むさくくより春の月

今中その田を人の来て悔ふ了

暮柳舎

車大

光化六年

之化己乃や



俳諧書林

京島丸下立賣上ル

勝田善助

¥ 1.25